

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 九州財務局長

【提出日】 2020年2月13日

【四半期会計期間】 第41期第3四半期(自 2019年10月1日 至 2019年12月31日)

【会社名】 株式会社ヒガシマル

【英訳名】 HIGASHIMARU CO.,LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 東 勤

【本店の所在の場所】 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

【電話番号】 099-273-3859 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理部長 田之畑 武

【最寄りの連絡場所】 鹿児島県日置市伊集院町猪鹿倉20番地

【電話番号】 099-273-3859 (代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員管理部長 田之畑 武

【縦覧に供する場所】 証券会員制法人福岡証券取引所
(福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次	第40期 第3四半期 連結累計期間	第41期 第3四半期 連結累計期間	第40期
会計期間	自 2018年4月1日 至 2018年12月31日	自 2019年4月1日 至 2019年12月31日	自 2018年4月1日 至 2019年3月31日
売上高 (千円)	9,756,475	9,866,534	12,232,082
経常利益 (千円)	602,942	286,433	431,576
親会社株主に帰属する 四半期(当期)純利益 (千円)	385,207	60,325	262,069
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	341,221	91,630	233,239
純資産額 (千円)	6,224,758	5,464,873	5,422,836
総資産額 (千円)	14,374,044	14,081,359	13,011,462
1株当たり四半期(当期)純利益 (円)	83.46	15.56	57.94
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益 (円)	-	-	-
自己資本比率 (%)	43.3	38.8	41.7

回次	第40期 第3四半期 連結会計期間	第41期 第3四半期 連結会計期間
会計期間	自 2018年10月1日 至 2018年12月31日	自 2019年10月1日 至 2019年12月31日
1株当たり四半期純利益 (円)	39.39	15.59

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社及び当社の関係会社が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社に異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものです。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、企業収益の向上や雇用・所得環境などの改善が図られ、緩やかな景気回復基調を下支えしているとみられるものの、貿易摩擦問題の長期化や中東情勢の緊迫化した動きから、世界経済の減速及び国内経済に与える影響の警戒感が強まり、先行き不透明な状況にあります。

水産及び食品業界におきましては、労働力不足等に伴う人件費や物流費の上昇、消費税率引き上げによる家計負担の増加及び燃料・石油関連資材の高騰が顕著となり、さらに業態を超えた価格競争があるなど様々な懸念含みで厳しい経営環境が続いております。

このような環境の下、当社グループは、「コンプライアンス経営」、「品質・安全の追求」、「研究開発の強化」、「海外市場の開拓」への取り組みを積極的に推し進めるなか、商品の信頼性向上やグローバル社会で通用する食品安全規格「ISO22000」の認証取得において、食品事業は昨年5月に取得し、水産事業は本年5月に取得する予定で進めております。

この結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高98億66百万円（前年同期比1.1%増）、営業利益1億85百万円（前年同期比63.1%減）、経常利益2億86百万円（前年同期比52.5%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益60百万円（前年同期比84.3%減）と増収減益になりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりです。

水産事業

水産事業における養殖環境は、天候不順に伴う赤潮の発生や水温の変化、自然災害の頻度増や大型化から漁業被害や感染症の発生も多く、これらの対策負担も増しております。また、各魚種の漁模様、輸入や国内外の需要動向等で、様々な要因の影響を複合的に受けて、魚価変動のリスクに晒されており厳しい環境が続いております。

このような状況のなか、エビ飼料類は、養殖環境が例年と比べ水温が高く細菌感染症等の被害の影響を受けるなどし、前年同期を下回りました。ハマチ飼料類、ヒラメ飼料類及びマダイ飼料類は、一部地域で赤潮発生による影響を受けたものの、新規販売先の獲得、既存販売先のシェア拡大及び受託生産販売増加で、前年同期を大きく上回りました。子会社におきましては、鮮魚販売が前年同期を下回り、養殖魚の生産不調・出荷遅れに加え、コスト増や魚価安で厳しい経営環境で推移しました。

その結果、売上高は61億74百万円（前年同期比0.7%増）、セグメント利益は2億97百万円（前年同期比48.7%減）となりました。

食品事業

食品事業におきましては、引き続き価格競争がある一方、物流費等のコスト上昇から昨年9月に値上げを実施しました。乾麺類(うどん、そば、そうめん類)は、低調で前年同期を下回りましたが、主力商品の即席めん類、皿うどん類、棒状ラーメン類及びカップ類(体にやさしい五穀スープ、カップ皿うどん)が、順調に推移し前年同期を大きく上回りました。子会社におきましては、大口取引先の販売減少、材料費や物流コスト等の上昇で厳しい環境で推移しました。

その結果、売上高は36億92百万円(前年同期比1.9%増)、セグメント利益は2億69百万円(前年同期比10.4%減)となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末と比べ10億69百万円増加し140億81百万円となりました。これは、主として現金及び預金が2億32百万円減少した一方、受取手形及び売掛金が9億62百万円増加、仕掛品が1億34百万円増加となったほか、原材料及び貯蔵品が2億12百万円増加したことなどによるものです。

負債は、前連結会計年度末と比べ10億27百万円増加し86億16百万円となりました。これは、主として買掛金が3億41百万円増加、短期借入金が12億53百万円増加、長期借入金が4億87百万円減少したことなどによるものです。

純資産は、前連結会計年度末と比べ42百万円増加し54億64百万円となりました。これは、主として利益剰余金が25百万円増加したことなどによるものです。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

前事業年度の有価証券報告書に記載のとおり、引き続き「コンプライアンス経営」、「品質・安全の追求」、「研究開発の強化」、「海外市場の開拓」に取り組んでまいります。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間のグループ全体の研究開発費の総額は1億63百万円であります。なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

() 当第3四半期連結累計期間は、「第4 経理の状況」において四半期連結キャッシュ・フロー計算書を掲げていないため、キャッシュ・フローの状況に関する分析・検討内容は記載しておりません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	17,900,000
計	17,900,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (2019年12月31日)	提出日現在発行数(株) (2020年2月13日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	4,746,000	4,746,000	福岡証券取引所	単元株式数は 100株であります。
計	4,746,000	4,746,000		

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
2019年10月1日～ 2019年12月31日		4,746		603,900		393,400

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

【発行済株式】

2019年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 868,800		
完全議決権株式(その他)	普通株式 3,877,000	38,770	
単元未満株式	普通株式 200		1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	4,746,000		
総株主の議決権		38,770	

【自己株式等】

2019年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ヒガシマル	鹿児島県日置市伊集院町 猪鹿倉20番地	868,800		868,800	18.30
計		868,800		868,800	18.30

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,291,532	2,058,830
受取手形及び売掛金	1,827,893	2,790,240
商品及び製品	587,637	614,533
仕掛品	582,327	716,382
原材料及び貯蔵品	1,179,808	1,392,525
その他	133,535	95,084
貸倒引当金	11,589	14,170
流動資産合計	6,591,145	7,653,426
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	1,578,547	1,555,094
機械装置及び運搬具(純額)	826,695	933,751
土地	2,127,540	2,127,540
その他(純額)	245,705	197,778
有形固定資産合計	4,778,488	4,814,164
無形固定資産		
のれん	311,169	260,790
その他	38,558	47,243
無形固定資産合計	349,727	308,033
投資その他の資産		
投資その他の資産	1,332,606	1,346,241
貸倒引当金	40,505	40,505
投資その他の資産合計	1,292,101	1,305,735
固定資産合計	6,420,316	6,427,933
資産合計	13,011,462	14,081,359

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2019年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	768,948	1,110,372
短期借入金	2,841,142	4,094,703
未払法人税等	66,434	99,404
賞与引当金	160,394	88,290
その他	427,795	469,905
流動負債合計	4,264,715	5,862,675
固定負債		
長期借入金	2,454,803	1,967,242
役員退職慰労引当金	497,734	386,728
退職給付に係る負債	91,314	98,680
その他	280,058	301,160
固定負債合計	3,323,910	2,753,810
負債合計	7,588,625	8,616,486
純資産の部		
株主資本		
資本金	603,900	603,900
資本剰余金	458,400	443,700
利益剰余金	5,207,107	5,232,538
自己株式	950,908	950,908
株主資本合計	5,318,498	5,329,229
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	104,338	135,643
その他の包括利益累計額合計	104,338	135,643
非支配株主持分	-	-
純資産合計	5,422,836	5,464,873
負債純資産合計	13,011,462	14,081,359

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

	(単位：千円)	
	前第3四半期連結累計期間 (自2018年4月1日 至2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)
売上高	9,756,475	9,866,534
売上原価	7,480,914	7,908,391
売上総利益	2,275,560	1,958,142
販売費及び一般管理費		
運賃諸掛	385,569	420,711
貸倒引当金繰入額	1,570	2,581
給料及び賞与	449,908	448,426
賞与引当金繰入額	31,919	43,563
退職給付費用	21,544	20,934
役員退職慰労引当金繰入額	17,871	17,663
その他	866,208	819,195
販売費及び一般管理費合計	1,774,591	1,773,075
営業利益	500,969	185,066
営業外収益		
受取利息	3,466	4,718
受取配当金	7,627	7,703
為替差益	9,881	-
受取保険金	41,707	38,640
補助金収入	17,494	32,727
雑収入	38,890	46,420
営業外収益合計	119,067	130,209
営業外費用		
支払利息	13,126	15,038
為替差損	-	11,646
雑損失	3,967	2,158
営業外費用合計	17,093	28,843
経常利益	602,942	286,433
特別損失		
投資有価証券売却損	6,988	-
特別損失合計	6,988	-
税金等調整前四半期純利益	595,954	286,433
法人税、住民税及び事業税	174,157	173,440
法人税等調整額	50,841	52,667
法人税等合計	224,999	226,108
四半期純利益	370,955	60,325
非支配株主に帰属する四半期純損失()	14,251	-
親会社株主に帰属する四半期純利益	385,207	60,325

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
四半期純利益	370,955	60,325
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29,733	31,305
その他の包括利益合計	29,733	31,305
四半期包括利益	341,221	91,630
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	355,473	91,630
非支配株主に係る四半期包括利益	14,251	-

【注記事項】

(四半期連結損益計算書関係)

売上高及び売上原価の季節的変動

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)及び当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

養魚用配合飼料の需要は、養殖魚の成長過程に応じ、摂餌が旺盛になる夏から初冬までが多く、水温が低下し餌食いが鈍くなる冬から春は少なくなるという季節的変動があります。

したがって、第2四半期連結累計期間及び第3四半期連結累計期間において売上高及び売上原価が大きく増加する傾向にあります。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
減価償却費	297,465千円	331,131千円
のれんの償却額	53,880	50,378

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2018年6月28日 定時株主総会	普通株式	42,345	9	2018年3月31日	2018年6月29日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2019年6月27日 定時株主総会	普通株式	34,893	9	2019年3月31日	2019年6月28日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	6,134,114	3,622,361	9,756,475	-	9,756,475
セグメント利益	579,710	300,231	879,941	276,999	602,942

(注) 1 セグメント利益の調整額 276,999千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費287,318千円、営業外収益19,985千円、営業外費用9,665千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント		合計	調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	水産事業	食品事業			
売上高					
外部顧客への売上高	6,174,184	3,692,350	9,866,534	-	9,866,534
セグメント利益	297,310	269,099	566,410	279,976	286,433

(注) 1 セグメント利益の調整額 279,976千円は、各報告セグメントに帰属しない全社費用等であり、提出会社の管理部門に係る販売費及び一般管理費274,860千円、営業外収益17,534千円、営業外費用22,650千円であります。

2 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)
1株当たり四半期純利益	83円46銭	15円56銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益(千円)	385,207	60,325
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する 四半期純利益(千円)	385,207	60,325
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,615	3,877

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2020年2月12日

株式会社ヒガシマル
取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	竹之内高司	印
指定有限責任社員 業務執行社員	公認会計士	上田知範	印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ヒガシマルの2019年4月1日から2020年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(2019年10月1日から2019年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2019年4月1日から2019年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ヒガシマル及び連結子会社の2019年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2 XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれておりません。